

- ・4年生 「ボールをキープして シュートをねらえ」
(ボール運動：ハンドボール)
- ・5年生 「大きな回転できれいにきめてみよう」(マット運動)
- ・6年生 「得意技の組み合わせで決めてみよう」(マット運動)



4年生ハンドボール



5年生マット運動



6年生マット運動

2 総合的な学習の時間 9月～10月

○オリンピックやパラリンピックの歴史や現状などを調べ理解を深める

- ・3年生「わたしとオリンピック」
- ・4年生「パラリンピックってなあに」

※図書資料やインターネットを使っての調べ活動でパンフレット等にまとめる



3年のつくったパンフレット

○ゴールボールの体験教室の開催 12月20日

- ・5年生 「ゴールボールのメダリストから学ぼう」

講師 浦田 理恵 選手

ロンドンパラリンピック金メダリスト

工藤 力也 選

2018日本選手権1位 選手兼コーチ

〈1部〉講演会：ミーティングルーム

「障がいを乗り越えた折れない

心とパラリンピックにかける思い」

講演会の様子

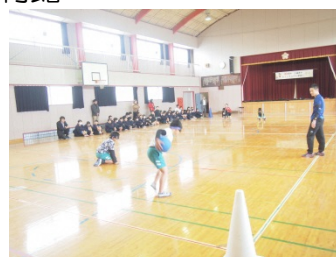


〈2部〉ゴールボール体験教室：体育館

※授業前にゴールボールの紹介DVDを視聴しルール等について学ばせる。

※5年生以外の全児童も体験教室を一部見学する。

※4年生、6年生は体育の時間に講師なしでゴールボールの体験を行う。



体験教室の様子

3 児童集会

○二川オリンピック 11月15日

- ・全校児童参加 8つの縦割り班対抗

・大声チャンピオン	・ボーリング
・じゃんけんチャンピオン	・新聞から落ちたらダメ
・新聞びりびり	・障害物競走
・空き缶つみ	・豆つかみ
・みんなでなわとび	・段ボールころころ

※代表委員会で1～6年生で誰でも楽しめる競技を考案

・実施までの経過

① 体力向上委員会で原案作成 (9月)

② 代表委員会で提案・決定 (10月)

③ 縦割りの班選手決め・練習 (10～11月)

④ 二川オリンピック (11月)



二川オリンピックの様子



長縄オリンピックの様子

○長縄オリンピック 1月30日

- ・全児童参加 学級毎
- ・3分間縄跳びの全学年累計で記録に挑戦
1500回越えを8クラスでねらう。

4 伝統文化や異文化理解を国語科、
社会科、道徳、外国語活動

〈国語科〉

- ・4年 「生活の中の和と洋」
- ・5年 「和の文化について調べよう」

〈社会科〉

- ・6年 ・大陸文化の影響 随・唐
- ・南蛮貿易、文明開化

〈道徳〉

- ・1～6年 伝統文化 異文化理解

〈外国語活動〉

- ・1～6年 自分の好きな外国を紹介しよう

1年1組	73	回
1年2組	104	回
2年	154	回
3年	200	回
4年	202	回
5年	174	回
6年1組	279	回
6年2組	318	回
合計	1504	回

長縄オリンピック結果

6 主な成果

○オリンピックの名称を使った取り組みを通して、東京オリンピック・パラリンピックの認知度がほぼ100%になった。

○パラリンピックへの認知度が低かったが、4年生の総合的な学習の時間での調べ活動のパンフレットの掲示やゴールボールの選手を招いての講演会や体験教室、体育の時間でのゴールボール体験で障がい者のスポーツ理解だけでなく、ハンディを乗り越えて生活されている生き方にふれ勇気やインスピレーションをもらうことができた。

○体育への児童の関心は以前から高かったが、12月時点での教科別好きな教科アンケートでは、第1位で80%以上の支持を受けた。また、スポーツの楽しさを味わわせることができた。

○児童集会等で種目を考える際に、誰でも楽しめること(年齢差・男女差・身長差など)を考慮して種目やルールを決めることを通して共生社会に向けた態度を養うことができた。

○日本の伝統文化と外国の文化との違いを社会科、国語科、道徳、外国語活動で学ぶ文化の違いを大事にしていこうとする態度を発達段階に応じて理解することができた。

7 実践において工夫した点
(事業の特色)

○教育課程への位置づけについては、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるまで無理なく実践できる内容を考えて教育課程に入れることができるものを実践していった。

○校内研究のテーマを体育の学習でとり、単元の最後に「〇〇オリンピック」と題して発表会や競技会を取り入れ、動きや技能向上のための意欲付けにオリンピックを活用した。

	<p>○発達段階に応じて、核となる授業を考えていった。中学年でオリンピック・パラリンピックの調査活動。高学年で、メダリストとの体験教室、集会の企画・運営。低学年は、集会への参加。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックコーナーを設け、3、4年生の調べ活動の成果を公表したり、福岡県のオリンピックを紹介したり、集会のお知らせや結果を掲示し関心を高めるようにした。</p>
8 主な課題等	<p>○児童集会の内容がオリンピック・パラリンピックの内容とかけ離れているものが多かったため、より体育的な内容になるよう児童に働きかけをしていく。</p> <p>○オリンピックを招くことが本年度はできたが、来年度以降予算の関係で難しいので、地域の人財を広く発掘していく必要がある。</p> <p>○関連のあるものを組み合わせた計画になったので、系統的な学習になるよう計画していく必要がある。</p> <p>○3、4年生での総合的な学習では少々無理なところがあり、来年度は、3年生から6年生までオリンピック・パラリンピック教育を実践する単元を1つずつ設け関連させて学習を進めたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○体育の学習における実践の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践領域を増やして行う。 ・各学年共通実践単元を「水遊び・水泳、持久走」 (30年度筑後地区体育研究大会会場校) <p>○オリンピック・パラリンピックを調べる・関わる総合的な学習の時間での実践</p> <p>○ゴールボールなどのパラリンピック種目の体験教室</p> <p>○二つの児童集会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二川オリンピック ・長縄オリンピック <p>○本年度取り組んだ各教科、領域の重点単元での取り組み</p>